

第1回日中韓三カ国環境大臣会合 1999年1月13日 ソウル(大韓民国)

共同コミュニケ

1. 崔在旭(チェ・ジェウク)大韓民国環境部長官の招待により、真鍋賢二日本国
国務大臣環境庁長官及び解振華(かい・しんか)中華人民共和国国家環境保
護総局長が、韓国ソウルを訪れ、三大臣は、1999年1月13日、日中韓三カ国
環境大臣会合(略称:TEMM)を開催した。また、三大臣は、青瓦台に金大中
大統領を表敬訪問した。
2. 三大臣は、北東アジア地域において、各国の環境汚染防止努力にもかかわらず、ダイナミックな発展の結果として環境の劣化が進行していることに関心を
表明した。
三大臣は、中国、日本及び韓国が北東アジア地域における経済及び環境協
力において重要な役割を果たしていること、北東アジア地域の持続可能な開
発にとって、三カ国の緊密な協力が不可欠であることを認知した。
三大臣は、また、地域及び地球規模の問題における国際協力を推進していく
ために主導権を発揮する必要性を確認した。
3. 三大臣は、以下の協力の分野を優先するという認識を共有した。即ち、三カ国
は同じ環境共同体の中にあるという意識の向上、情報交換の活発化、環境研
究における協力の強化、環境産業分野及び環境技術の協力の促進、大気汚
染防止及び海洋環境の保全のための適切な対策の探求、生物多様性や気候
変動などの地球環境問題への対応、の各分野である。三大臣は、また、これ
らの問題に取り組むために協力する意向を表明した。
4. 三大臣は、今回会合の結果を実行するために、既存の枠組みを最大限活用
することが望ましいとの認識を共有した。しかしながら、三大臣は既存の枠組

みが適当でない場合には、今回会合の結果を実現する作業計画を作り上げるために作業グループを設置し、もしくは、連絡窓口を指定することが適切であると決意した。

5. 三大臣は、三カ国環境大臣会合の最初のイニシアティブとして、三カ国の「環境共同体」意識の向上、及び三カ国環境担当部局間の情報交換の育成を推進していくことを決定した。また、三カ国環境部局間の人的交流及び連絡手段の強化、NGO 及び研究機関間の交流と協力、地方自治体間の交流と協力を積極的に促進するという意図を表明した。三大臣は、また、これらのイニシアティブを推進するための連絡窓口を指定するとの意図を表明した。

6. また三大臣は、全ての国による最大限の可能な協力を通じて気候変動の問題に対応すること及び京都議定書の早期発行を確保することが極めて重要であるとの認識を共有した。三大臣は、この目的のため、共通であるが差異ある責任、それぞれの能力、並びに、各国の社会・経済条件に応じて、それぞれの国内対策を最大限可能な限り強化するという共通の認識に到達した。

7. 三大臣は、三カ国環境大臣会合は基本的に毎年順番に開催されること、三大臣は開催国、または、三大臣が出席する国際会議の機会に会うことを決定した。

2000年に開催される第2回三カ国大臣会合の開催国は、互いの相談を通じて後日決定されること、また、時期・場所は後日、他の二国に通知することが決定された。

三大臣は、第2回会合の議題は、互いに相談した後、採択することを確認した。

8. 三大臣は、親密な雰囲気と、三カ国の環境協力の強化に大きく貢献した第1回会合の実り多い結果に満足の意を述べた。真鍋賢二大臣と解振華大臣は、開催国の厚意に感謝の意を表明した。
-

真鍋 賢二

國務大臣 環境庁長官

日本国

崔 在旭

環境部長官

大韓民国

解 振華

国家環境保護總局長

中華人民共和國
